
実務ワークショップ報告

平成 24 年度実務ワークショップ 「ユーザ満足度向上のためのサービス」

日本微生物資源学会実務担当小委員会

永井利郎

(独立行政法人農業生物資源研究所遺伝資源センター (MAFF))

坂本光央

(独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター (JCM))

伴さやか

(独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター (NBRC))

河地正伸

(独立行政法人国立環境研究所微生物系統保存施設 (NIES))

林 将大

(岐阜大学大学院医学系研究科病原微生物遺伝子資源保存センター (GTC))

2011 年の第 18 回大会では、それまでは大会前日に諸会議の合間に開催していた実務担当者会議を、ワークショップ形式として大会期間中に開催した。そのため、それ以前は日程的に参加が難しかった一般会員にも参加しやすいものとなり、ワークショップは盛会のうちに終わった。そして 2012 年第 19 回大会では名称を新たに「実務ワークショップ」として、大会期間中に開催した（それに伴い、企画担当のグループの名称を実務担当者会議世話人から実務担当小委員会へと変更した）。その敷居を格段に低くすることで、より多くの方がワークショップに参加できるようになり、カルチャーコレクション (CC) の実務についての情報を共有できることになったのは大きな前進である。

さて、第 19 回大会の実務ワークショップでは、「ユーザ満足度向上のためのサービス」というテーマで開催した。CC は微生物株の配布・受入や微生物株のオンラインカタログだけではなく、ユーザに様々なサービスを提供している。そのようなサービスを通じて、さらなる微生物株の利用、ユーザの利便性向上、CC の認知度上昇などが期待される。そこで下記の 3 機関から講師をお招きして、それぞれの CC が提供する特色あるサービスについて、その内容の紹介、予算・人員、手間、評判・苦労話など実務に即した話題を提供していただいた。それぞれのサービスは各 CC が頭をひねって考案されたものであり、その手間暇を考えると担当された方々の苦労がしのばれる。いずれのサービスもユーザからは非常に役に立ったなど、高い評価を受けていた。技術研修では CC からの一方的な情報・技術の伝達だけではなく、双方向に情報のやり取りが可能であり、参加者から情報などを得ることができ、有益なサービスであったと報告された。メールマガジンやマニュアルでは、バックナンバーを蓄積し Web サイトで公開することで、一つの知識データベースとしての活用が可能である、とのことであった。メールマガジンでは公開の際にはさらに図や写真を追加するなどユーザフレンドリーな工夫も紹介された。担当者・執筆者の選択方法、テーマの設定方法、他の CC のサービスとの差別化、需要など非常に身近な所での質問がなされ、参加者の興味を高めるものがあった。

微生物株自体の情報、例えば、ゲノム情報、同定にかかわる情報（塩基配列・資化性など）・病原性・物質生産性などの特性情報、文献・特許情報を収集し公開していくという、保有する微生物株自体の価値を高めていくオーソドックスなサービスを提供していくことはもちろんのことではあるが、それとはまた違ったベクトルのサービスを紹介することで、日本のCC全体の価値向上、そしてテーマにもあるようにユーザに満足してもらえるサービスの提供につながれば幸いである。

講演内容については、次のページより講師の方にそれぞれ一篇の解説としてまとめていただいた。CCに直接関係していない方々、そして実務ワークショップに参加できなかった方々に是非一読してもらいたい。末筆ではあるが、講師の先生方には大会の準備などでお忙しい中、本ワークショップでの講演を快く引き受けてくださり厚く御礼申し上げます。

概要

大会名：日本微生物資源学会第19回大会

日 時：2012年6月28日9:30-10:50

場 所：千葉県木更津市・かずさアカデミアホール 201 会議室

9:35-10:00	演題1：メールマガジン「NBRC ニュース」の配信	中川恭好 (NBRC)	
10:00-10:25	演題2：理研 BRC-JCM における技術研修	岡田 元 (JCM)	
10:25-10:50	演題3：微生物利用マニュアル	澤田宏之 (MAFF)	(敬称略)